

## 第9回国立国会図書館契約等監視委員会議事概要

開催日及び形式	令和3年7月28日(水)14時～16時 Web会議システムによるオンライン開催	
委員長及び委員	委員長 山本 清(鎌倉女子大学学術研究所教授) 委員 石田 晴美(文教大学経営学部教授、公認会計士) 委員 稲垣 隆一(弁護士) 委員 布施 伸枝(公認会計士)	
議事の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入札及び契約に係る手続の運用状況、指名停止の運用状況等についての報告</li> <li>・抽出結果報告</li> <li>・抽出案件の説明及び審議</li> </ul>	
審議対象契約期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	
抽出案件	5件	(備考) 案件総数244件
競争入札(物品役務)	4件	契約件名: 本庁舎で使用する電気 契約相手方: 東京電力エナジーパートナー株式会社 契約金額: 基本料金単価457.65円等、電力料単価(その他): 13.40円、 電力料単価(夏季): 14.41円(単価契約: 110, 157, 190円) 契約締結日: 令和2年4月1日 担当部局: 総務部会計課
		契約件名: NDLデジタルアーカイブシステムデジタルデポジットシステムの保守及び機能改修1式 契約相手方: 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 契約金額: 78,698,400円 契約締結日: 令和2年4月1日 担当部局: 関西館総務課
		契約件名: 令和2年刊行外国新聞(「Al-Nahar」等)1式の売買 契約相手方: 株式会社徳高書店 契約金額: 3,399,459円 契約締結日: 令和2年4月1日 担当部局: 関西館収集整理課
		契約件名: 国立国会図書館関西館図書館資料の製本施工等の請負 契約相手方: ナカバヤシ株式会社大阪支社 契約金額: 6,530円等41点(単価契約: 4,198,084円) 契約締結日: 令和2年8月18日 担当部局: 関西館総務課
		契約件名: 仮想化基盤提供及び統合運用作業1式 契約相手方: ネットワンシステムズ株式会社 契約金額: 1,588,785,000円 契約締結日: 令和2年4月1日 担当部局: 総務部会計課
随意契約(物品役務)	1件	契約件名: 仮想化基盤提供及び統合運用作業1式 契約相手方: ネットワンシステムズ株式会社 契約金額: 1,588,785,000円 契約締結日: 令和2年4月1日 担当部局: 総務部会計課
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告	なし	

## 別紙

主な意見・質問	回答等
<b>【本庁舎で使用する電気】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定価格の積算はどのように行っているのか。</li> <li>・ 競争環境を確保するため、どのような措置を講じているのか。</li> <li>・ 電力需給は、夏季より冬季のほうがひっ迫がある。冬季の単価が高いほうが適切ではないか。</li> <li>(意見)</li> <li>・ 今後は環境やSDGsへの配慮も求められる。そうした観点も議論しておいていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各事業者へ見積りを依頼しているものの徴取が困難である。積算は関係資料をもとに行っている。</li> <li>・ 応札者を増やすため、過去の状況や応札辞退事業者へのヒアリングをもとに今年度分の調達から入札スケジュールを後倒しにした。</li> <li>・ 夏季の単価が高い傾向は、他府省とおおむね同様である。</li> </ul>
<b>【NDLデジタルアーカイブシステムデジタルデポジットシステムの保守及び機能改修1式】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実質的に競争が存在していたか。一般競争入札の要件が充足されていたか。</li> <li>・ 一者応札となった理由は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般的な技術要素で構築されており、他の事業者でも履行可能である。CIO補佐官の確認も経ている。</li> <li>・ 別々の事業者が開発した複数システムがまとまり、規模が大きくなったことで、中小事業者の参加が限定された。業界における人手不足も背景にある。</li> </ul>
<b>【令和2年刊行外国新聞（「Al-Nahar」等）1式の売買】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般競争入札の要件が充足されていたか。</li> <li>(意見)</li> <li>・ 電子媒体による収集を、DXの流れ、利便性・活用という観点から積極的に検討すべきである。</li> <li>・ 国立図書館としては、直接購入・収集を担える人材を育成していくという観点も期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジア諸国で刊行される主要新聞であり、現地では特に入手が困難な資料ではない。参加者も複数いた。</li> </ul>
<b>【国立国会図書館関西館図書館資料の製本施工等の請負】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一者応札となった理由は何か。実質的に競争が存在していたか。</li> <li>・ 劣化・破損したものは修理ではなく、デジタル化してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周知はしているが、市場が縮小して事業者数が限られている。材料・機材・技術の点では、特定の事業者依存するものはない。</li> <li>・ デジタル化は計画に沿って行っており、劣化・破損した資料を個別に行うようにはなっていない。</li> </ul>

【仮想化基盤提供及び統合運用作業1式】

・総合評価落札方式ということだが、技術点の最低水準は決められていたのか。

・競争入札の要件が存在していたか。

(意見)

・ベンダーロックインが発生しているのであれば、初めから競争性なしと判断して、随意契約にする考え方もあるのではないか。

・システム構築事業者の決定時に、その先の保守やリプレイスまでを考慮することで、保守の調達方法の選択に関して説明責任が果たしやすくなるのではないか。

・最低基準を満たした上で、技術点及び価格点を加算するようになっている。

・本事業は、以前は各システムでインフラを調達していたものを、統合的な仮想サーバへ集約し最適化したものであり、今回初めてリプレイスを行った。多数の事業者へ直接周知したものの、結果として応札者は限定されてしまった。より応札しやすい条件になるよう仕様を見直していきたい。